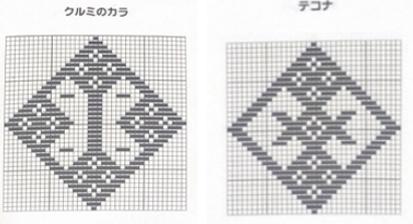


こぎん刺し体験記

こぎん刺しとは？

こぎん刺しとは、津軽地方に伝わる伝統的な刺し子であり、発祥は江戸時代にまで遡る。江戸時代、麻布を藍染したもののしか身につけることを許されていなかった津軽地方の農民が、厳しい寒さを凌ぐための保温と生地への補強のために麻布に木綿の糸で刺し子をするようになったことが由来である。その後、どうせ刺し子をするのであればデザイン性も重視したものにしようという考えが生まれ、現在のような模様を施すこぎん刺しが誕生した。こぎん刺しの特徴としては左の図のように縦の織り目に対し一、三、五、と奇数目を数えて刺す技法が特徴であり、蝶を意味するテコナやクルミのカラなど様々な柄が存在している。また、こぎん刺しには農民の衣類に施された模様の違いから地域で3種類に分類され、弘前市東部で作られた東こぎん、弘前市西部で作られた西こぎん、五所川原市を中心に作られた三縞こぎんの3種類が存在している。



岩木かぢらず会「津軽こぎん刺し」より

取材先
岩木かぢ
らず会

こぎん刺しへの想い

もったいない精神から始まったこぎん刺しであるが、現在は、様々な方法で親しまれている。具体的には、りんごといった自分の好きな模様をこぎん刺しで表したり、バッグやポーチなどにこぎん刺しを使用したりすることで、デザイン面からも楽しまれている。他にも、こぎん刺しで絵画を表現するこぎん刺し作家も存在し、こうした活動も行われている。また、より多くの人にこぎん刺しに触れて欲しいという思いから、こぎん刺しの展示や販売・体験といったイベントを頻繁に開催しており、時代に合わせた自由な楽しみ方があるからこそ多くの人に知ってもらいたいという想いのもと活動を行っている。最近では、上図で示したような下書きなしで思いのままに創作するこぎん刺しが生まれている。これに対し、岩木かぢらず会の方々は、そうした創作のやり方もいいと思うが、基本の形があるからこそであるから、基本を大切にしてほしいと語ってくれた。



岩木かぢらず会による作品

こぎん刺しに挑戦！

初心者でも比較的簡単にできる、こぎん刺しのコースターとしおり作りを実際に体験させていただきました。はじめは針を通す場所を間違えてしまったり、糸の引っ張り具合の感覚をつかめなかったりと難しさを感じることもあった。しかし、作業をしているうちに少しずつ慣れ、気づくと作業に熱中している時間が充実していて楽しいと感じるようになっていった。

伝統工芸と聞いて、少々ハードルが高いように感じていたが、今回実際にこぎん刺しを体験してみて、案外気軽に取り組むことができる活動だということを感じることができた。

今回感じた「気軽に楽しむ」という感覚で、これからも伝統工芸に触れていきたいと感じた。

編集後記

取材を通じ、伝統工芸に関わる方の想いに触れることができた。こぎん刺しには時間を忘れられる楽しさがあるので、気軽に触れて楽しんでほしい。



実際に作ったコースターとしおり